



街が教室になる — 次世代に繋ぐ、学びから始まる循環型観光 —

(一財) 丸亀市観光協会
河崎



目次

Index

- 01 丸亀市の歩み
- 02 TOP100の審査:1STEP、2STEP
- 03 アセスメントレポートのFBと分析結果
- 04 ストーリー内容(課題と対策)
- 05 ストーリー内容(対策の具体例と成果)
- 06 ストーリーのFBと今後の展開

01 丸亀市の歩み

2022年

- ・観光庁「持続可能な観光地経営モデル地区事業」に採択されたことを契機にWGを設立
- ▶ 地域の歴史や地理的特性、観光資源の現状を多角的に分析し、課題を抽出、解決策を模索

2023年

- ・立命館大学(食マネジメント学部)と産官学連携事業として、模索した解決策をモニタリング
- ・GD2023年版TOP100に『丸亀うちわ』の伝統継承の取り組みなどが評価され、選出

2024年


- ・実現可能性の高いものから官民で連携し、磨き上げを行う
- ・これまでの取り組みスキームをまるっと教育旅行向け探求学習プログラムへ商品化

2025年


- ・磨き上げを行ったコンテンツのPRと販路拡大、教育プログラムのセールス強化

02 TOP100の審査: 1STEP、2STEP


グリーン・デスティネーションズTOP100ストーリーズ ?



2014年から毎年開催されており、心に残るサステナブル・ツーリズムの事例として100の観光地や事業者を選出し、世界各地の観光地、ツアーオペレーター、旅行者にPRを行っている。



このコンペティションでは、公募により「100のサステナブル・ツーリズムのストーリー」が選出され、そのストーリーの有効性、革新性、他の地域における再現性といった観点から審査される。



TOP100の中で最も優れたストーリーは、ベルリンで毎年開催されるITBベルリン内の「グリーン・デスティネーションズ・ストーリー・アワード」にノミネートされる。

02 TOP100の審査: 1STEP、2STEP

- ・プロモーション
- ・地域のブランド化

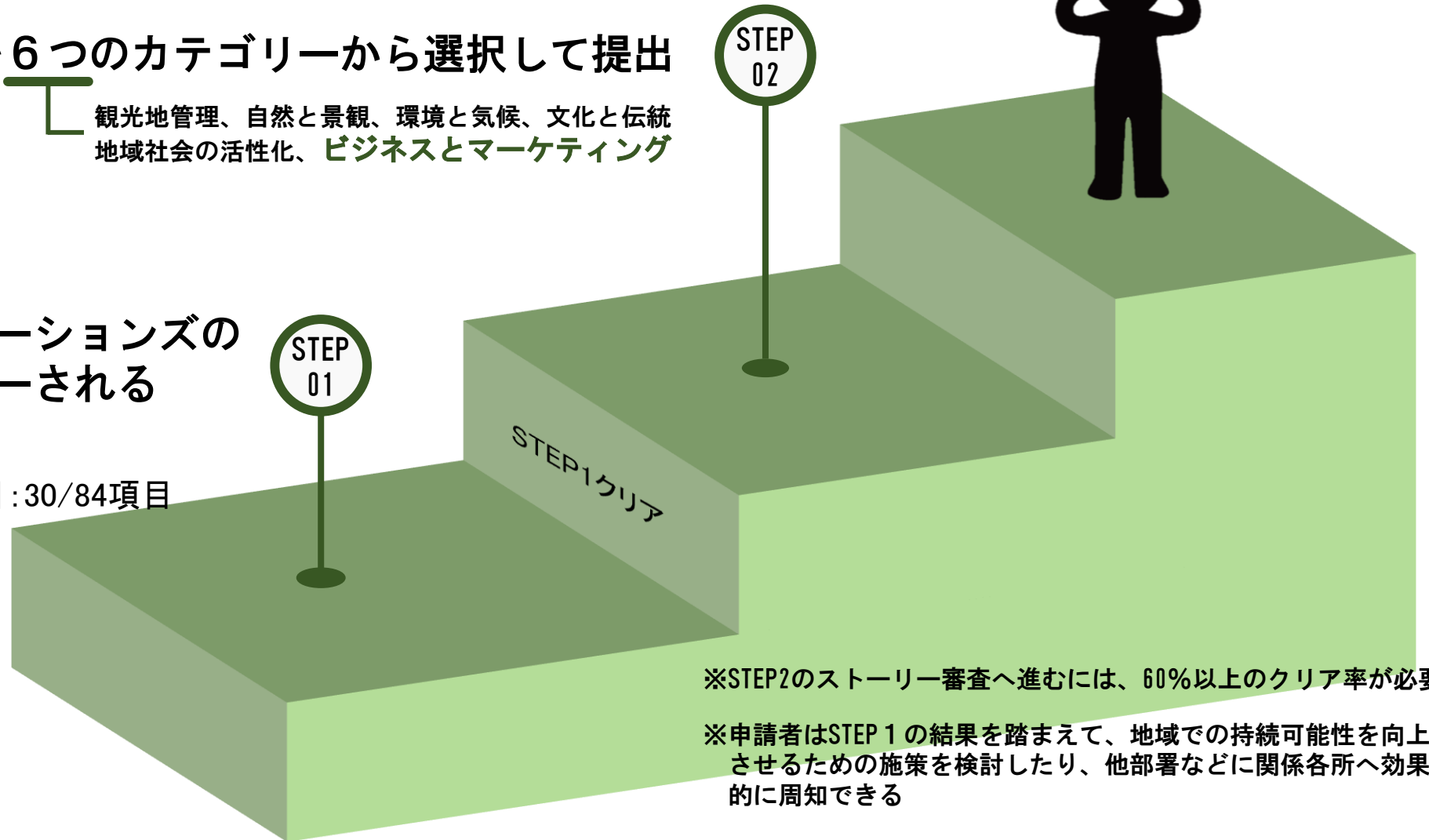
各地の優良事例を6つのカテゴリから選択して提出

観光地管理、自然と景観、環境と気候、文化と伝統
地域社会の活性化、ビジネスとマーケティング

グリーン・デスティネーションズの
評価員によってレビューされる

【申請対象】

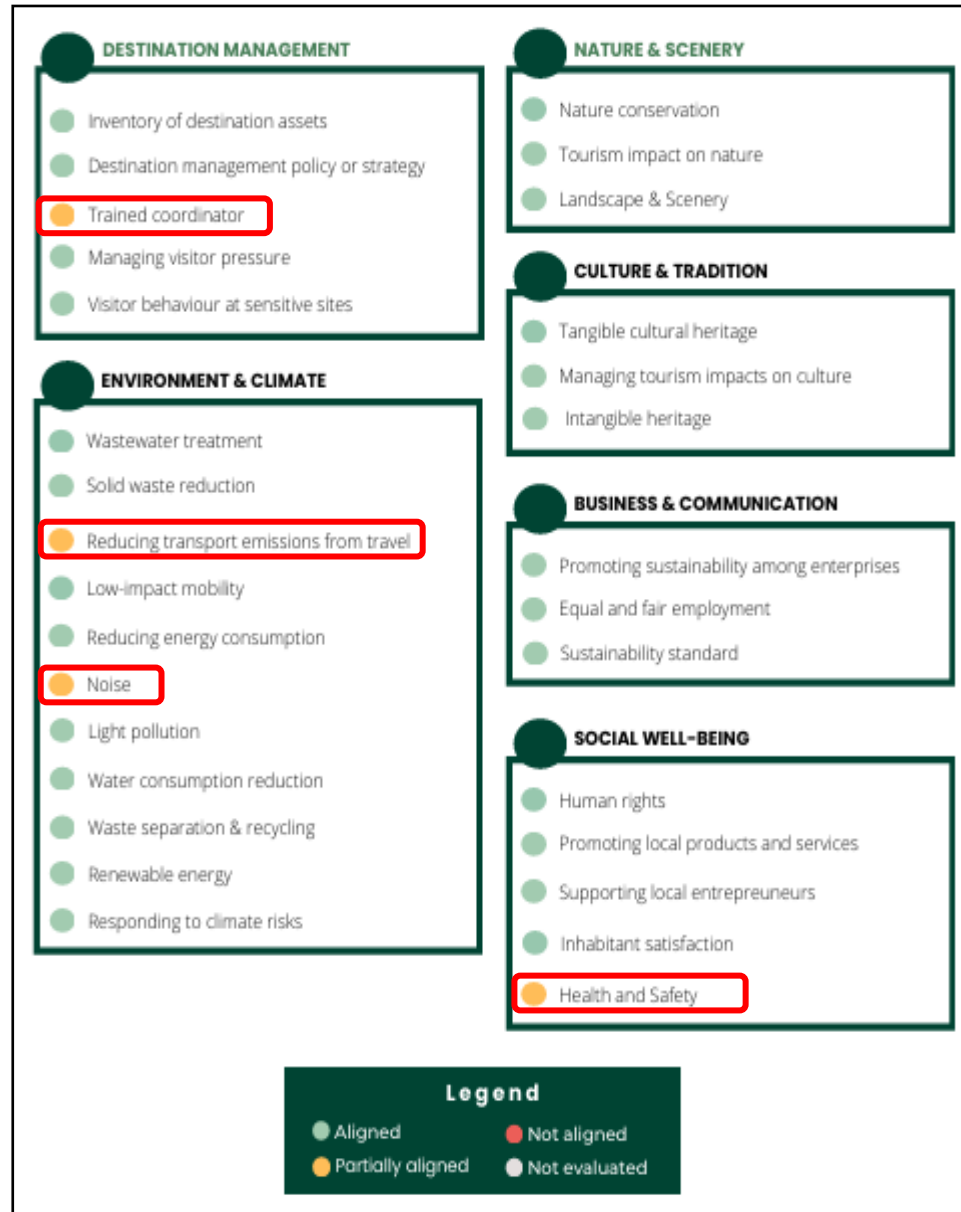
1年目: 15/84項目 ▶ 2年目: 30/84項目



※STEP2のストーリー審査へ進むには、60%以上のクリア率が必要

※申請者はSTEP1の結果を踏まえて、地域での持続可能性を向上させるための施策を検討したり、他部署などに関係各所へ効果的に周知できる

03 アセスメントレポートのFBと分析結果



〈アセスメントレポートより分析結果〉

一部準拠の下記項目を改善していく必要あり

- 01** Trained coordinator
訓練を受けたコーディネーター
- 02** Reducing transport emissions from travel
旅行による輸送排出量の削減
- 03** Noise
騒音
- 04** Health and Safety
健康と安全

04 ストーリー内容(課題と対策)

課題

- ❗ 観光関連事業者間の横断的なネットワークの不十分さ

サステナブル・ツーリズムへの共感、認知度の低さ

- ❗ 地域資源の活用や価値創出

将来世代に向けた地域資源の継承に対する理解度の低さ、課題解決とビジネス性の両立



対策

- ✔ 「循環型経済(サーキュラーエコノミー)」の可視化と実装

地域の資源循環の潜在力を明確にするために循環図を作成し、課題の構造的な理解と共有を行い、新たな地域ビジネス創出の可能性を明確化(産官学連携事業)

- 1 課題構造の可視化とシンキングポイント(思考の着眼点)の設定
- 2 産官学連携でのFWと多面的な検討
- 3 教育旅行向けプログラムと地元教育への展開



05 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ (株)パブリック ▶ レオマリゾート

シンキングポイント



教育旅行向け
コンテンツ化

循環で生まれた
食材を再利用



パーク内
レストラン



ホテル

コスト削減、
新たなビジネス展開



造園と菜園



フードロス

... ただ廃棄するのではなく、
リユースする



コンポスト化

... 資源の循環、
地元業者とのパートナーシップ

05 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ (株)パブリック ▶ レオマリゾート

SDGs 観光のひとつとして「食品リサイクルに取り組む」

レオマリゾートのSDGS取り組み(案)



日々捨てられるバイキング料理の廃棄食材を堆肥化し、パラ園 エディブルガーデン、園内の植栽に利用する。エディブルガーデンで採れた野菜はバイキングで提供。

レオマの森 レオマワールド



ホテルレオマの森 生ごみ廃棄量 年間68.2t

内食品リサイクル対象物22.8t~33.6t

平均28.2t 28.2tの生ごみから生産される堆肥は約20%

28.2t × 0.2 = 5.64t を目標とする!

5.64tのCO²削減量は
3,119kg

食品リサイクル分別について

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>食品リサイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理くず 調理加工品 食べ残し物 茶葉 コーヒーかす | | <p>リサイクル対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> 卵の殻、貝殻、魚のあら・骨、カニ・エビの殻、大量に調味料がかかった物 パン・うどん等糖類、スープ等液体、梅干し、トウモロコシの芯、パイナップルのへた ビン・カン等容器入りの物、割り箸・串・ようじ | |
|--|--|--|--|

※リサイクル対象外の物が混載時、可燃物扱いとなりますのでご注意ください。





05 ストーリー内容(対策の具体例と成果)

★ 中津万象園 ▶ まるく農園

【課題】

松の処分に
コストがかかる



【解決策】

剪定した松を
まるく農園へ提供



【事例】

レモン栽培の
グランドカバーで活用



SDGs的視点からどうコンテンツ化して
ビジネス展開するのか!?

05 ストーリー内容(対策の具体例と成果)



— 松葉リユースからレモネードへ —



まるく農園のレモンは、市内の「タンジール・カフェ」でレモネードに加工・販売。
松葉をイメージした限定パッケージは、万博会場での販売や試飲会でも好評。
中津万象園併設の「懐風亭」にて提供を検討中、文化財の保安全管理に対する寄付付き商品として販売予定。

— 地元教育への展開 —



レモネードが完成するまでのストーリーを大手前丸亀中学・高等学校のボランティア部「TSUNAGU」や(株)丸亀給食センターに伝え、生徒が主体的に考えながら、地域の魅力を発信する取り組みを校内で実施することに成功。
→生徒自ら思考・デザインし、老舗和菓子屋「寶月堂」とのコラボ作品を商品化。

06 ストーリーのFBと今後の展開

— フィードバック —

Story title

The Classroom Is the City. Educating for Circular Tourism across Generations

Category

Business & Marketing

EVALUATOR COMMENT

"An outstanding example of co-creation and social inclusion, this initiative not only revitalizes local identity through sustainable tourism and circular economy practices, but also empowers the next generation by integrating education, community engagement, and environmental stewardship into a replicable model for regional innovation."

— 和訳 —

ストーリータイトル

街が教室になる
— 次世代に繋ぐ、学びから始まる循環型観光 —

カテゴリー

ビジネス & マーケティング

評価委員会のコメント

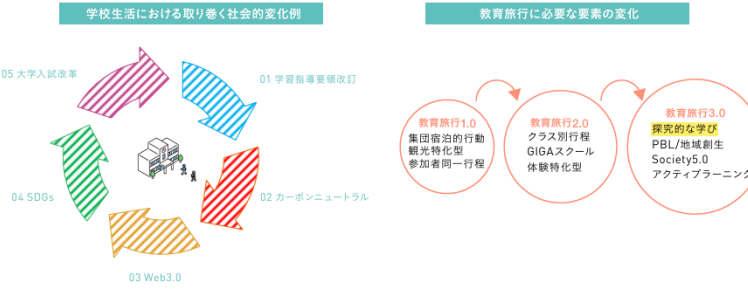
共創と社会的包摂の優れた例であるこの取り組みは、持続可能な観光と循環型経済の実践を通じて地域のアイデンティティを活性化するだけでなく、教育、地域社会の関与、環境管理を地域イノベーションのための再現可能なモデルに統合することで、次世代のエンパワーメントにも貢献します。

06 ストーリーへのFBと今後の展開

教育旅行向け探究学習プログラムへの展開（ワークブックも作成）

VUCA 「予測困難な」 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)

これまで何時間もかけて調べていたことや、何日もかけてやりとっていたことが、スマホの登場によりわずか数分で済むようになりました。こうしたテクノロジーの進化は、世の中の仕組みやルールをめぐるしく変化させ、社会は「将来の予測が困難な状態」、VUCAの時代に入りました。同時に、地球規模でWeb3.0が加速している中、ChatGPTはじめ生成AIが世界に衝撃を与え、教育の領域でも文科省が学校教育におけるAIの利用に関して、ガイドラインを発表されました。予測困難なことが続き、子どもたちに必要なのは、この予測困難な社会をサバイブし、その中で社会をよりよくしていくための経験とスキルです。だからこそ、わたしたちは、子どもたちの可能性を引き出し、経験とスキルを身につけられることが必要な教育旅行3.0時代と位置づけ、教育旅行を通じて探究的な学びができる探究型教育旅行を提供して行きます。



A コース
SDGs探究コース (半日)
訪問場所：丸亀市/丸亀城/丸亀うちわミュージアム
丸亀市は「世界の持続可能な観光地TOP100」に選ばれ、伝統文化継承と環境保護を両立する持続可能な観光資源である丸亀うちわが注目されています



B コース
ローカルビジネス探究コース(半日)
訪問場所：丸亀市内商店街/御菓子司 賀月堂 (株) OIKAZE/中津万象園 (株) 富士建設
丸亀エリアで活躍する方々のお話を聞いたり、施設訪問しながら地域の産業の現状と課題を探ります。



C コース
こんびらさんと商店街探究コース(半日)
訪問場所：太助灯籠/池商店/こんびらさん
五人百姓 池商店は、観光地「こんびらさん」にある老舗の館屋です。金刀比羅宮の境内では、「五人百姓」として名物の「加美代袖」を販売しています。丸亀とこんびらさんの歴史的なつながりをひもときながら、表参道商店街の活性化と課題について探ります。



社会とのつながり
人や社会、自然との関わりにおいて、社会や自然の一員として自己の在り方生き方を考える

丸亀ならではのテーマ
丸亀ならではの取り組みやすいテーマで課題設定、情報収集などの学習活動を発展的に繰り返していく

地域共創
地域の課題解決策をインクビューやフィードバックなどを通して新たな価値を創造する

5つの学びの観点

Problem-Based-Learning 課題解決型学習
問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく探究より効率的に進める

アクティブラーニング
「主体的・対話的で深い学び」の視点でのアプローチ

丸亀市探検ワークブック
MARUGAME RESEARCH WORKBOOK

丸亀市は、日本屈指の持続可能な観光地「ISTSD」に基づいて、地域の多様な課題解決にサステナブルな観点から取り組み、未来へつなぐ観光地マネジメントを目指します。

世界に認められた持続可能な観光地

学年 年 組 名 姓
氏名

情報収集

丸亀市のニュースを調べてみよう!

参考文献
丸亀市HP
丸亀市Instagram @marucamera_official
丸亀市総合計画Qで検索してみよう!

ニュースの中で丸亀市の地域課題だと思えるものを書き出してみよう!

丸亀市が行っている、丸亀うちわの課題解決の取り組み

参考文献
歴史を紐く、丸亀うちわ ニュー・マスター-31
丸亀市HP

調べた内容を書き出してみよう!

Let's Thinking Marugame City!

情報収集

(例) 丸亀市の伝統的工芸品丸亀うちわとは?

「丸亀うちわは、400年以上前(江戸時代)から丸亀城下町で作られている伝統的工芸品。こんびら祭りのお土産品として普及し、丸亀産が武士の肉親にうちわ作りを贈ったこと、丸亀市の代表的な産業となった。」

2023年に丸亀市が「持続可能な観光地」として世界のTOP100に選出!

400年以上続く、丸亀うちわの伝統産業は、産業の縮小や後継者不足など様々な問題を抱えています。そんな中、後継者育成支援や丸亀うちわニュー・マスター-制度などの後継者創出事業を行っています。域内外での事業、観光客などさまざまな丸亀市へ観光客が来るとともに、丸亀市でうらやみづくりに挑戦した方が丸亀うちわのファンとなり、後継者候補としての身体条件を評価に繋がっているフローや交流人口の増加、職種に特化したうらやみ製作の取り組みなどが評価され、世界のTOP100に選出されました。

丸亀市が行っている、丸亀うちわの課題解決の取り組み

参考文献
歴史を紐く、丸亀うちわ ニュー・マスター-31
丸亀市HP

調べた内容を書き出してみよう!

現地調査

丸亀を実際に歩いてみよう!

丸亀市の事業者や課題解決に取り組む方達

中津万象園・丸亀美術館
丸亀市の創成として建設された200年以上にわたる歴史を、歴史の宝庫として丸亀市の上の町に保存されている。その中で、丸亀市が丸亀市に伝えている。丸亀市が丸亀市に伝えている。丸亀市が丸亀市に伝えている。

(株) OIKAZE
丸亀市の作り手の事業者と連携し、さまざまな地域資源を活用して、新しい特産品などの商品開発やプロデュースを行っている地域企業。商品開発のみならず、卸・小売業から販売・イベント企画、教育事業まで様々な丸亀市から地域で作り手と連携し、商品開発することで、地域課題がSDGsの目標達成を促進している。

丸亀市 賀月堂
創業100年以上を誇る老舗御菓子屋。季節によって変えるお菓子を中心に、さまざまなお菓子や地域内外の交流に貢献している。店舗の運営は、お菓子製造から地域の方々の笑顔までを大切に、お菓子を通して人と人が繋がる時間を提供している。

丸亀うちわ職人
江戸時代から丸亀城下町で作られている伝統的工芸品「丸亀うちわ」を、丸亀市で作り手として伝えている丸亀うちわ職人。職人の後継者不足の課題解決に向けて、「後継者育成支援」や「丸亀うちわニュー・マスター-制度」の導入などに取り組む。職人に伝えている「うちわ」の魅力を伝えている。

(株) レオマユニティ
1999年に創業し、テーマパークやホテルなどさまざまな施設が設置された四国最大のテーマパーク「レオマユニティ」を運営。ホテルやテーマパークで提供されるイベントや施設管理を通じて出る廃棄物を削減し、店内の節電に再活用したり、収穫した食材の一部をレストランで提供するなどSDGsに取り組んでいる。

現地調査

ビジネスアイデアに対しての意見をもらおう!

意見に対してのビジネスアイデア改善案

POINT
丸亀市地域の事業者がこれまで取り組んでいない新しいビジネスアイデアを提案しよう! 地域外に伝えているからこそ見つかる視点で、丸亀市を客観的に捉え、丸亀市や地域の新しい価値を再発見することが重要!

06 ストーリーのFBと今後の展開

国内外からの視察やインバウンド客、教育旅行へ展開

STEP
03

新たな地域課題に対する
取り組み実行

新規コンテンツの発掘と連携

STEP
02

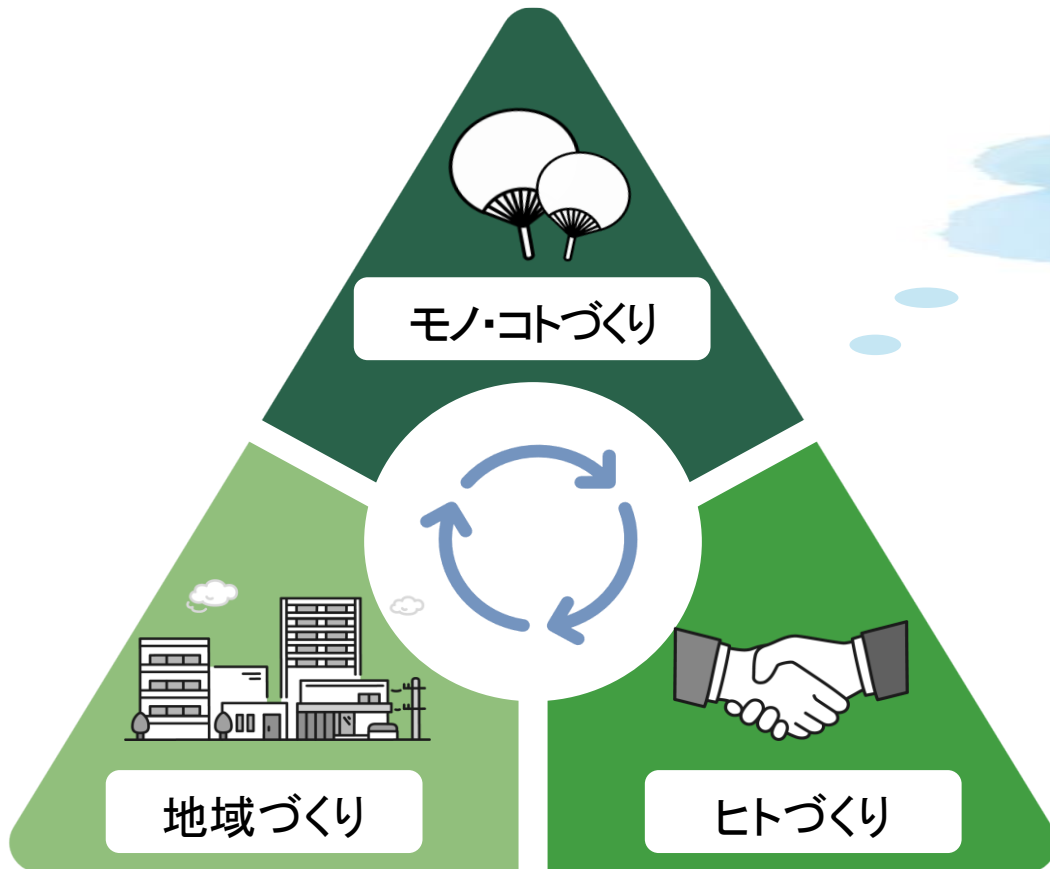
STEP
01

既存コンテンツの磨き上げ



06 今後の展望(まとめ)

持続可能な観光地域づくりには
「モノ・コトづくり → ヒトづくり → 地域づくり」が重要



モノ・コトづくりには、必ず人が集まり、人づくり(人間関係構築)が生まれ、やがて地域として歯車が動き出す！

この歯車を回し続けるために、単なるモノづくりだけでなく、1つのモノ・コトが生まれ、持続していくには「どんな立場の人がどのように関わっていくのか」、コミュニティーの構築と継続を深く考える必要があると感じる。
プレイヤーの確保やシビックプライドの醸成を意識しつつ、「教育的価値・ブランド化・共創」の循環を観光軸で考えていく。

ご清聴ありがとうございました。

Thank you for your attention.